KIORITZ

取 扱 説 明 書

エンジンポンプ
KEP252H

⚠ 警 告

ご使用前に、必ず取扱説明書をよく読んで正しく作業してください。
取扱説明書の指示内容を守ってください。
守らなかった場合は、死亡または重傷事故を起こす恐れがあります。

⚠ 注　意

- この取扱説明書は、いつでも読めるように、紛失、汚損の恐れのない、すぐ取出せる所に必ず保管してください。
- この取扱説明書が損傷により読めなくなった場合、紛失した場合は、販売店より新しく取扱説明書を購入し、常に参照できるよう保管してください。
- この取扱説明書で解説している製品を貸与する場合、借りて作業をする人に、この取扱説明書を読ませ、十分な指示、訓練を行なった後、この取扱説明書とともに製品を貸与してください。
- 製品を譲渡される場合は、この取扱説明書を製品に添付してお渡しください。
- ご不明なことやお気付きのことがございましたら、販売店にご相談ください。

はじめに

共立エンジンポンプをお買い上げいただき、ありがとうございます。

- この製品を揚水以外の目的で使用しないでください。
- この取扱説明書には、組立や操作、整備に必要な事項が書かれていますので正しく効果的な製品の取扱いができるよう、よく読んで理解してください。
- 取扱説明書の内容は製品の標準装備を基本に構成していますが、特別注文品（オプション）やアクセサリを使用する場合も含まれます。
- 本書に記載されている仕様や解説あるいは説明のために例にあげられている図や内容は、改良のため予告なしに変更することがあります。
- 単位はＳＩ単位を使用しています。(　)内は参考値ですので数%の換算誤差がある場合もあります。

⚠ 危　険

その警告に従わなかった場合、死亡または重傷を負うことになるものです。

⚠ 警　告

その警告に従わなかった場合、死亡または重傷を負う可能性があるものです。

⚠ 注　意

その警告に従わなかった場合、ケガを負う恐れのあるものです。

⚠ 警　告

- 正しい作業のための警告・注意を注意深くよく読んで理解すること。
- 正確で正しい操作のために、この取扱説明書を必ず読むこと。

丸に左斜線の入ったこの記号は、表示されているものが全て禁止されていることを表わします。

重　要

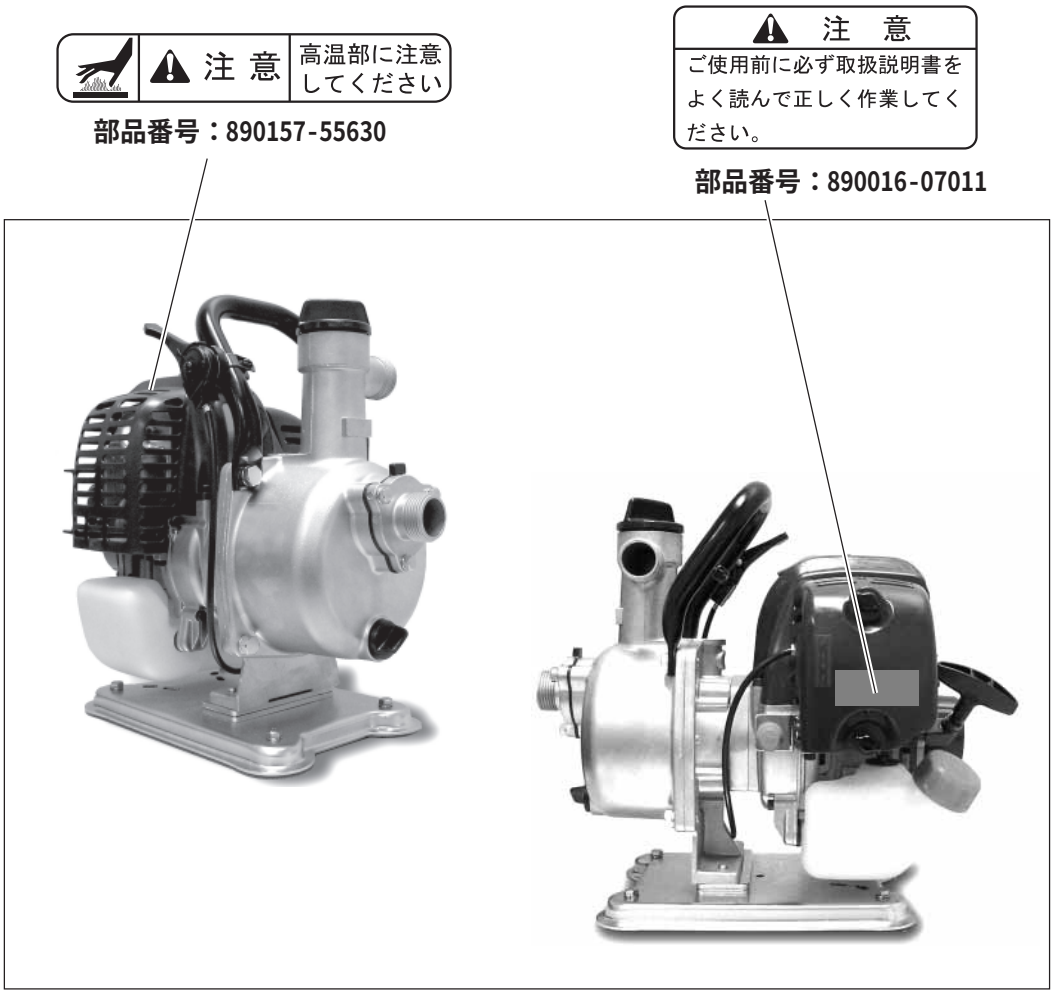
重要として囲まれた文章は、この取扱説明書で説明されている製品の使用、点検、保守・保管に関する注意事項です。

目 次

はじめに 2
警告表示ラベルについて 3
各部の名称 4
正しい作業のために 6
組　立 10
運転前の準備 11
運　転 13
輸送・移動時の注意 15
点検・整備 16
故障対策 20
長期保管 23
仕　様 24

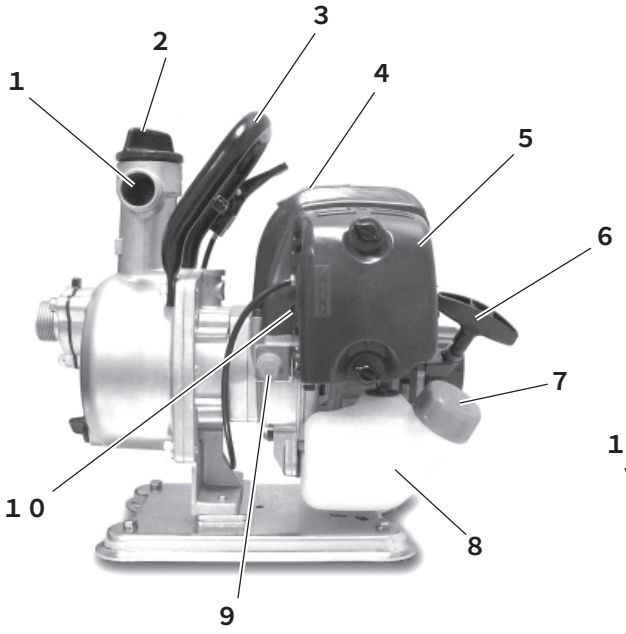
警告表示ラベルについて

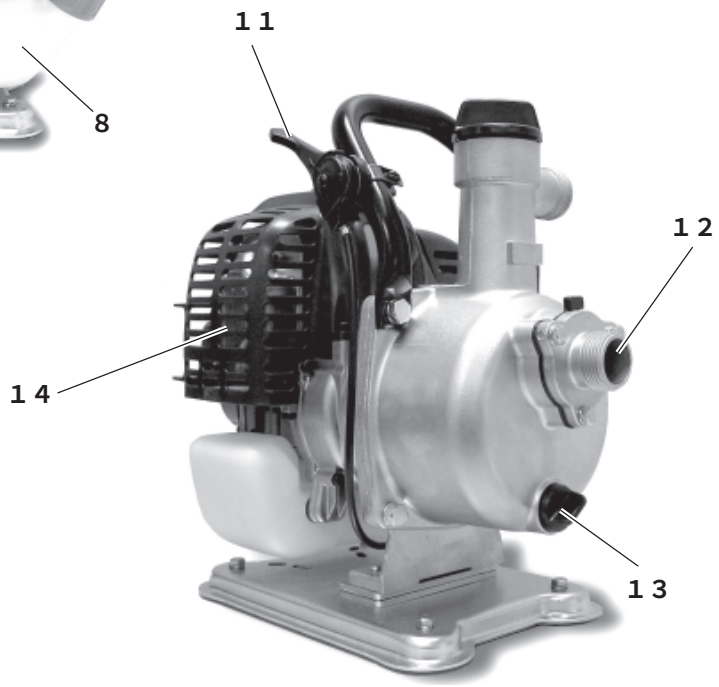
- **この取扱説明書で解説されている製品には、下記の「警告表示ラベル」が貼付してあります。ご使用前に下図で確認し、ラベルの意味を理解してください。**
- **ラベルが摩滅したり破損して内容が確認できなくなった場合や、はがれて紛失した場合は、販売店から新しくラベルを購入し、下図の位置に指示してある箇所に貼り、常にラベルが確認できる状態を維持してください。**



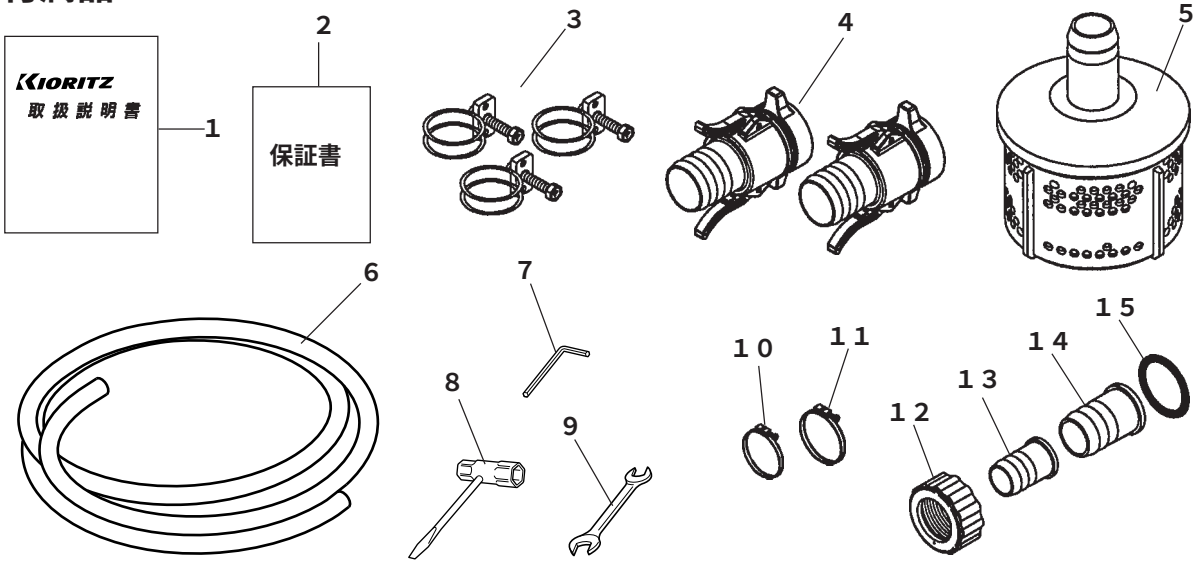
各部の名称

本 体


1
2
3
4
5
6
7
8
9
10


11
12
13
14

付属品


KIORITZ
取扱説明書
1
2
保証書
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15

各部の名称（本体）

１．吐出口 —— 加圧された水を吐出する口です。
２．注水口ふた —— 呼び水注水口のふたです。
３．ハンドル —— 移動時や始動時に使用します。
４．スパークプラグ —— エンジンの頭部に組付けられ、シリンダ内の混合気に点火するものです。
５．エアクリーナカバー —— エアフィルタを防護するカバーです。
６．スタータグリップ —— エンジンを始動するときに使用します。
７．燃料キャップ —— 燃料タンクを密封するふたです。
８．燃料タンク —— 燃料を入れる容器です。
９．ストップスイッチ —— エンジンを停止するスイッチです。
１０．チョークレバー —— 冷えたエンジンの始動に使用します。
１１．スロットルレバー —— エンジンの回転数を調節するレバーです。
１２．吸水口 —— 吸水ホースを接続します。
１３．ドレンプラグ —— ポンプ内の水を抜くときに使用します。
１４．シリンダカバー —— 消音器（マフラ）やシリンダをカバーし、作業者が不用意に高温部に触れるのを防ぎます。

各部の名称（付属品）

１．取扱説明書 —— 製品をお求めになったとき必ず付属しています。
製品を使用する前に必ず読んでください。また正しい操作方法を再確認する場合に備え、すぐ取出せる場所に必ず保管してください。
２．保証書
３．ホースバンド（32 ㎜） —— ホースを取付けるときに使用します。
４．ワンタッチカップリング —— 吸水口と吐出口に取付けます。
５．吸水ストレーナ —— ポンプが吸水する際に異物を取除きます。梱包時には吸水ホースに組付いていませんので、この取扱説明書を参照して吸水ホースに組付けてください。
６．吸水ホース —— 水を吸込むホースです。先端に吸水ストレーナを取付けます。
７．六角レンチ
８．ソケットレンチ（13 × 16）
９．スパナ（8 × 10）

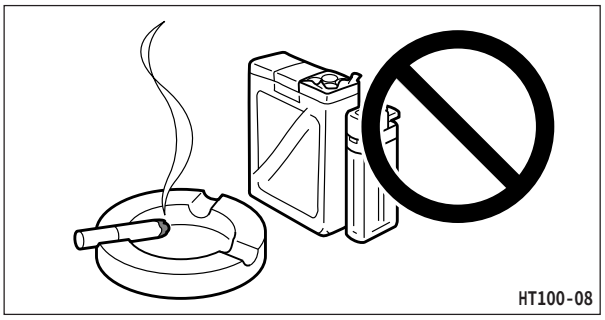
以下の部品は必要に応じてご使用ください。
１０．ホースバンド（22 ㎜）
１１．ホースバンド（26 ㎜）
１２．ホースジョイント
１３．ホースカップリング（25 × 15）
１４．ホースカップリング（25 × 20）
１５．パッキン

※本製品には吐出口に接続するホースは付属しておりません。別途お買い求めください。

正しい作業のために

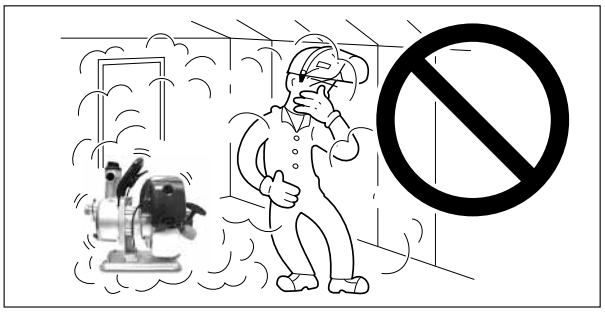
⚠ 警　告

製品の取扱いをあやまると大変危険です。ご使用前に、必ず取扱説明書をよく読んで正しく安全に作業してください。



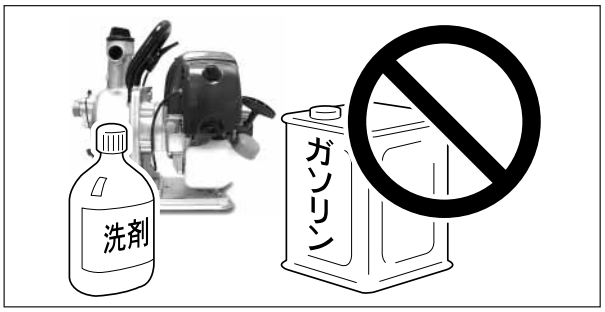
⚠ 危　険

燃料を扱うときは、絶対にタバコを吸ったり、火気を近づけないでください。



⚠ 警　告

エンジンの排気ガスには、死に至る有毒なガスが含まれています。室内や通気の悪い場所でエンジンを始動しないでください。



重　要

- **ポンプには、清水または農業用水以外のものは吸込ませないでください。**
- **水道栓からの直接給水は、絶対に行なわないでください。**
- **吸水ホースにストレーナを取り付けてください。**

⚠ 警　告

次のような場合は製品を使用しないでください。

- **降雨時や落雷の恐れがあるとき**
- **急傾斜地や足元が不安定で滑りやすい場所**
- **夜間や視界が悪い場所**

転倒や滑落、誤った操作などにより重傷を負う原因となります。



からだの状態

● 病気のときや体調が悪いとき、妊娠中の場合、また、アルコールや体の機能に影響をおよぼす薬を飲んだときには作業を行なわないでください。

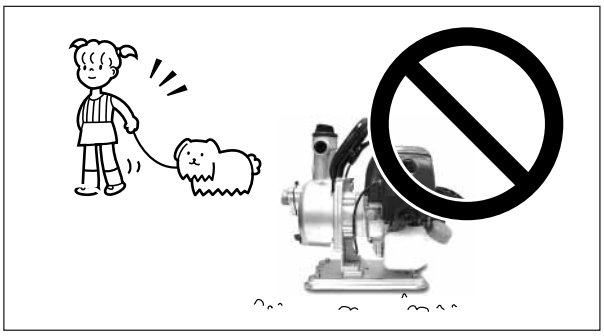
⚠ 警　告

適切な服装、保護具を身に付けないと事故が起きることがあります。正しく作業するために、必ず適切な服装、保護具を身に付けてください。

服装について

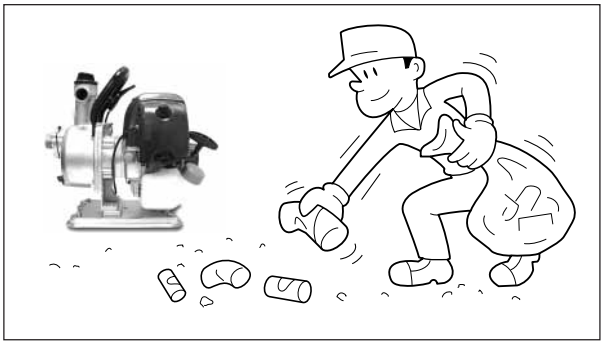
● 滑りにくい作業靴を履いてください。
つま先のあいた靴、サンダル、はだしで作業を行なわないでください。

作業前の点検



⚠ 注　意

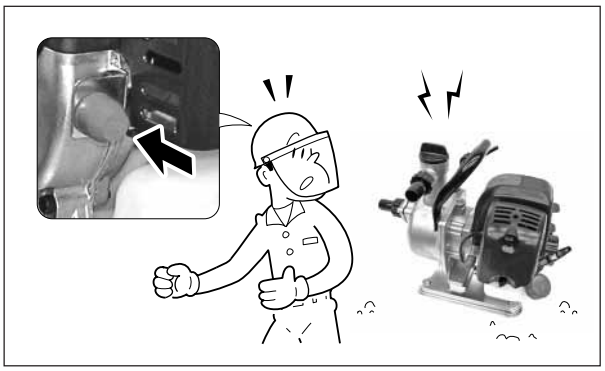
子供や作業に関係のない人が近くにいないことを確認してください。



● 作業場所の点検は必ず行ない、ゴミ、空きカンなど作業の障害になるものを取除いてください。

● ホース、その他の部品がきちんと取付けられているか確認してください。

作業中の注意



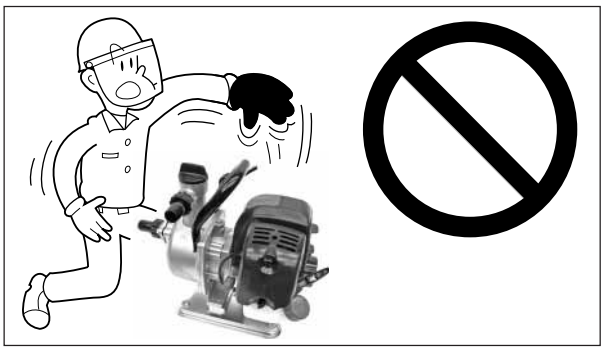
重　要

カラ運転をしないでください。
ポンプ故障の原因となります。

⚠ 警　告

危険を感じた場合はすぐに作業を中止してください。

- **回転が不安定な場合や異常な音がした場合は、すぐに作業を中止してください。**

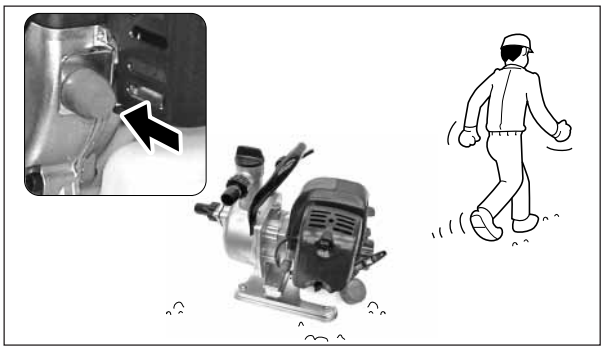


⚠ 警　告

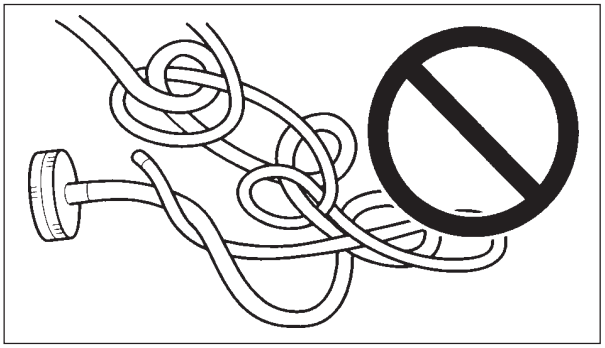
運転中や停止直後は、エンジンおよびポンプの表面が熱くなっています。触らないようにしてください。

⚠ 警　告

- **燃料を補給するときは、必ずエンジンを停止してエンジンが冷えてから行なってください。**
- **燃料給油時はこぼさないように注意してください。（燃料タンクの口元まで給油しないでください。）燃料をこぼした場合は、すぐに拭き取ってください。**



- **作業以外で製品から離れるときは、エンジンを停止してください。**



- **ホースが絡まったり、ねじれたりしないように気をつけてください。**

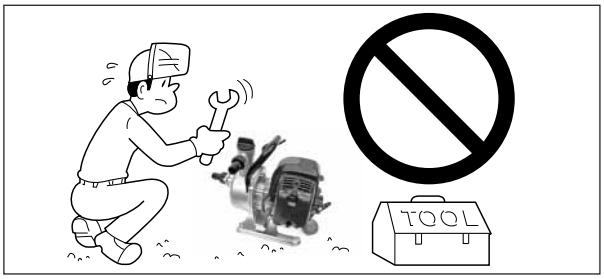
重　要

ホースに亀裂や傷等があったり、水漏れが発生した場合は、直ちに新品と交換してください。

- **製品に絡み付いた草などを取除くときは、必ずエンジンを停止してください。**

⚠ 警　告

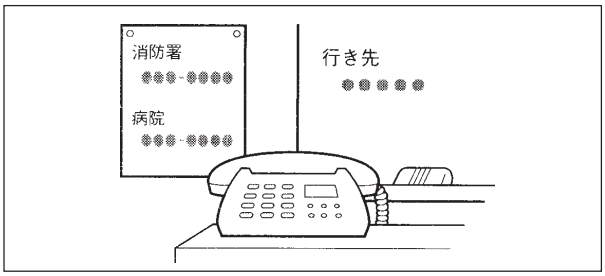
修理、清掃などの作業を行なうときは、必ずエンジンを停止してください。

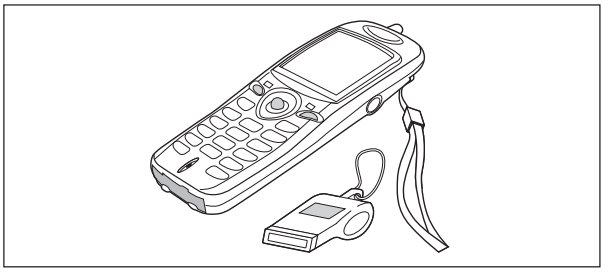


点検・整備の注意

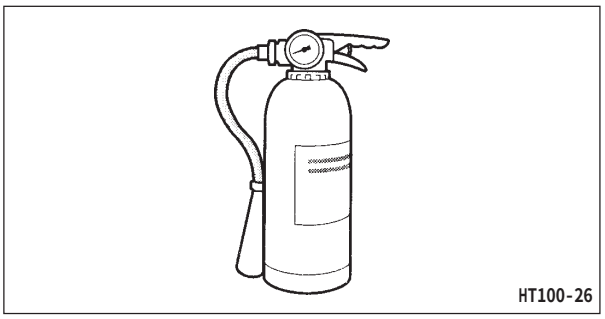
- **この取扱説明書に従って点検・整備を行なってください。**
- **当社指定以外の部品を使用したり、製品の改造を行なったりしないでください。**
- **保管する前に必ず水を抜いてください。冬期に凍結することがあります。**

万一の事故に備えて





- **作業の前に**
  - **万一の事故に備え、電話機のそばの目につきやすい場所に、医療機関、消防署（救急車）の電話番号を明確にしておいてください。**
    特に消防署への連絡の場合、救急車のための目標地点（住所、目標となる建造物など）も明確にしておくと、的確な連絡に役立ちます。
  - **単独で作業する場合、どこで作業を行なっているかが他の人にもわかるような方法（携帯電話を持つ、黒板に作業現場をメモするなど）を講じてください。負傷し動けなくなり帰れなくなった場合の対処として有効です。**
  - **作業現場には、呼子（笛）を携帯してください。**

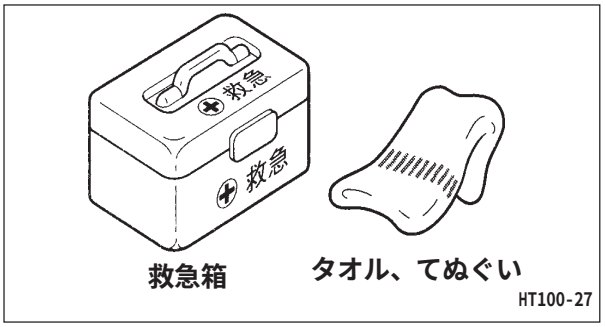


- **発火に対する備え**

⚠ 警　告

作業中、万一、エンジンから発火または排気口以外から発煙したら、まず製品から離れ、自分の身体の安全を確保してください。

  - **自分の身体を、火災その他の傷害から守るように注意してください。**
    草木などに類焼しないよう注意してください。シャベルで砂などをかけるか、または消火器で消火してください。



- **ケガへの備え**
  - **万一のケガへの備えとして、応急手当用品の入った救急箱を用意してください。**
    出血をともなうケガについては、止血用に汗拭き用のタオルや、てぬぐいなども有効ですので、常時余分に作業現場へ携帯することをおすすめします。

組　立

⚠ 注　意

組立作業は、必ずエンジンを停止して行なってください。

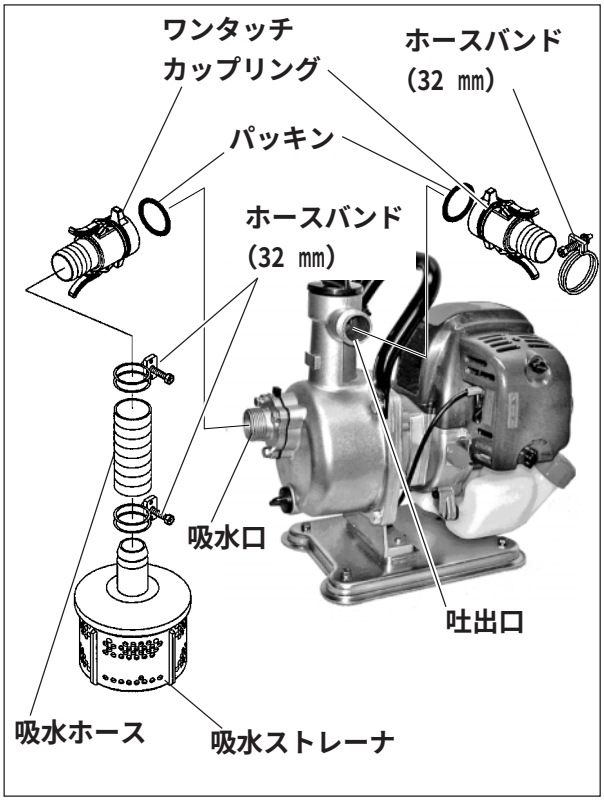
⚠ 警　告

取扱説明書をよく読んで、正しく組立ててください。
☆誤って組立てた製品を使用すると、事故を起こす原因となります。



重　要

- 水は清水または農業用水だけを使用してください。
- ゴミを吸い込むとポンプ羽根車とポンプシールを破損する恐れがあります。
- 吸水ストレーナが破損しているときは、使用するのをやめ、新品と交換してください。
- ワンタッチカップリング取付けるときは、強く締めすぎないでください。パッキンを損傷することがあります。
- 水源とポンプの高低差は8 mを越えないようにしてください。



ホースの接続

1．ワンタッチカップリングを図のようにポンプの吸水口、吐出口に取り付け、確実に締め付けてください。パッキンは必ず取り付けてください。
2．吸水口側のワンタッチカップリングに吸水ホースを差込み、ホースバンド（32 ㎜）で確実に止めてください。反対側に吸水ストレーナを取り付け、ホースバンド（32 ㎜）で確実に止めてください。
　吸水ストレーナにゴミが付着している場合は取り除いてください。
3．吸水ストレーナを水源に沈めてください。（ポンプの最大性能を出すため、堆積物、落ち葉、泥、その他のゴミがある場所を避けてください）
4．吐出口側ワンタッチカップリングに吐出ホース（製品に付属していません）を取り付け、ホースバンド（32 ㎜）で確実に止めてください。
5．再度接続部がきちんと取り付けられているかを確認してください。吸水・吐出ホースが障害物に接触していないことを確認してください。

運転前の準備

⚠ 危　険

燃料は非常に引火しやすいので、取扱いを誤ると火災の危険があります。
☆燃料に引火して、火傷や火災を起こすことになります。

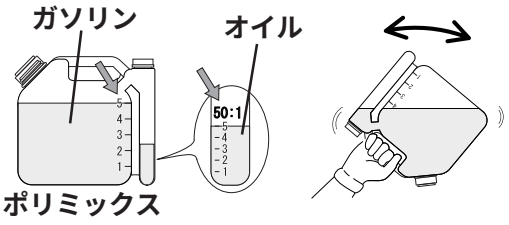


⚠ 警　告

●燃料を補給する際は手動式の燃料補給ポンプを使用し、製品が安定した状態で給油口からこぼさないように注意して補給してください。（電池式の灯油ポンプは使用しないでください）
製品に燃料が少しでもこぼれたら、必ず拭き取ってください。
●燃料を補給する際は静電気の火花放電を避けるため、補給前に製品および補給用タンクを地面に数分間置くなどして、帯電している静電気をアースしてください。
また、作業者自身も手のひらを地面や金属に接するなどしてアースしてください。
●燃料を補給した後は燃料タンクキャップを確実に締付け、必ず燃料パイプ、燃料系グロメット、燃料タンクキャップ周辺から燃料の漏れ、にじみがないことを確認してください。燃料の漏れ、にじみがある場合は直ちに使用を中止し、お買い求めの販売店に修理を依頼してください。
☆燃料に引火して、火傷や火災を起こす原因となります。

重　要

●この製品に使用する燃料は、レギュラーガソリンと２サイクルエンジンオイルを混合した「混合燃料」です。アルコール混入燃料はゴム製部品の劣化を早めますので、使用しないでください。
●混合燃料は劣化しやすいので、使用する分量だけ混合してください。
●余った燃料の保管期間は1ヶ月程度としてください。



ポリミックス
ポリミックス（別売品）を使用してよく混合してください

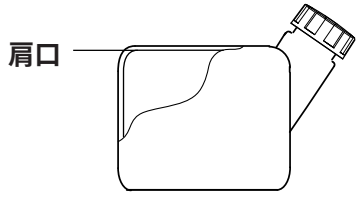
燃料

やまびこ純正２サイクル専用オイルか、ＪＡＳＯ性能分類ＦＣ またはＦＤ グレードのオイルを 50:1 の比率でよく混合してください。

ガソリンと２サイクルエンジンオイルの混合比

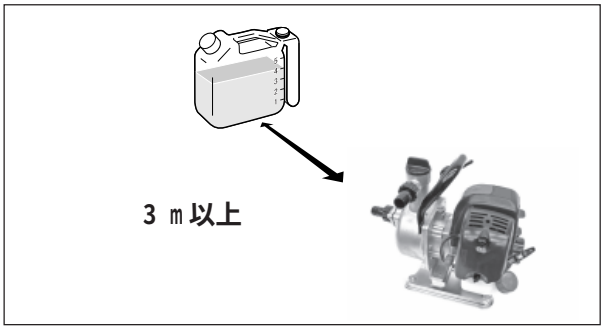
ガソリン(L)	２サイクルエンジンオイル(mL)
2	40
4	80
5	100

※ 指定以外のオイルや混合比は、エンジン不調の原因となります。



燃料は燃料タンクの肩口より上まで補給しないこと

- **燃料の補給作業は、必ず風通しの良い所で行なってください。**
- **燃料の補給作業は、製品と補給用タンクを地面に置いて行なってください。トラックの荷台の上などでは行なわないでください。**
- **燃料は燃料タンクの肩口より上まで補給しないでください。**



- 燃料タンクには、外気との間に圧力差が生じています。
  燃料を補給するときは、燃料タンクキャップをすこしゆるめて、圧力差を取除いてください。
- 燃料タンクのキャップを開け、手動式の燃料補給ポンプなどでこぼさないように燃料を入れてください。(電池式の灯油ポンプは使用しないでください)
- 燃料が少しでもこぼれたら、必ず拭き取ってください。ただし湿度が低いときは、乾いた布で拭くと静電気を帯びやすいので、水を湿らせた布で拭き取るようにしてください。
- エンジンを始動する前に、補給用タンクから3 m以上離してください。
- 補給用タンクは火気のない日陰に置いてください。

呼び水

重　要

●ポンプをカラ運転しないでください。
●呼び水をしないと、ポンプが吸水しません。また、ポンプ破損の原因となります。



ポンプを使用する前に呼び水を行い、ポンプ内を水で満たす必要があります。また、ポンプ内の水が抜けてしまった場合にも呼び水が必要となります。

1．注水口ふたを外してください。外す場合、ふたに装着されているシールリングを失くさないよう注意してください。
2．呼び水注水口から注水し、ポンプ内を清水で満たしてください。
3．注水口ふたをしっかりと締め付けてください。

運　転

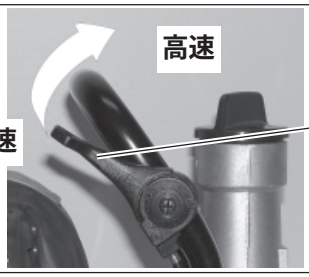
重　要

●呼び水をしてから運転してください。
●ポンプをカラ運転しないでください。ポンプ破損の原因となります。

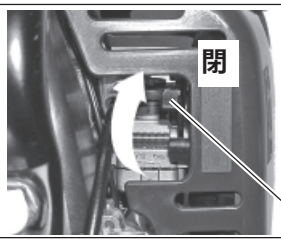
⚠ 警　告

エンジンの排気ガスには、死に至る有毒なガスが含まれています。室内や通気の悪い場所でエンジンを始動しないでください。

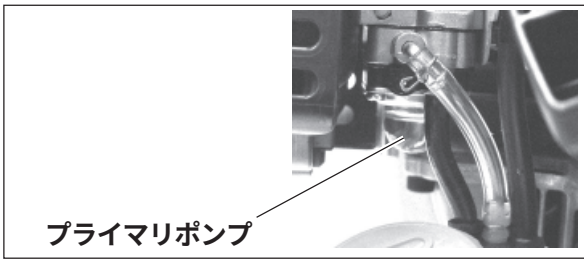
冷えたエンジンの始動



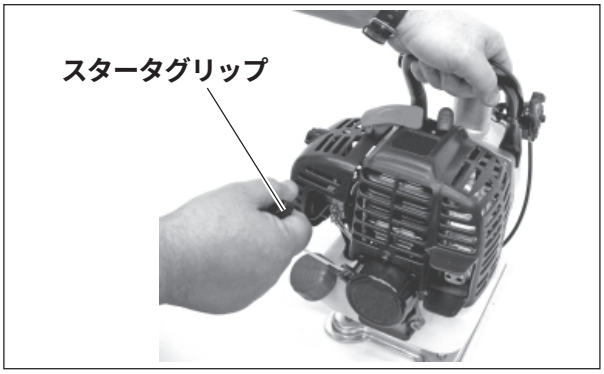
１．スロットルレバーを高速側に少し動かしてください。



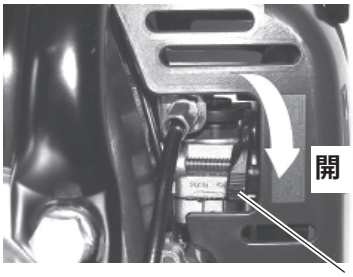
２．チョークレバーを「閉」の位置にしてください。



３．プライマリポンプ内に燃料が吸い上がるまで、プライマリポンプを押す･離すの操作をくり返しください。（目安５～１０回）
※購入後初めて使用する場合、または長期保管後最初に使用するときは、上記の目安回数にかかわらずプライマリポンプ内に燃料が吸い上がるまで、プライマリポンプの操作を続けてください。



４．周囲の安全を確認して、製品をしっかり押さえ、スタータグリップを数回引いてください。
５．爆発音がし、すぐに止まった場合は、チョークレバーを「開」の位置にして、更にスタータグリップを引き始動させてください。

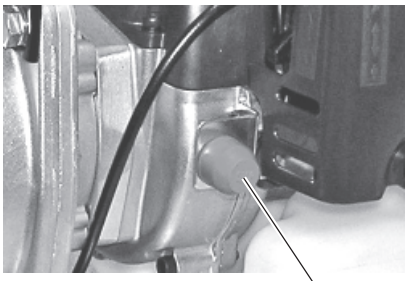


チョークレバー

6．５項の操作ですぐにエンジンが始動したら、チョークレバーを徐々に「開」の位置に戻してください。
7．低速のままでしばらく暖機運転をしてください。
※　低速で運転しても吐出口から水は出ます。
8．スロットルレバーを高速側に動かし、作業に合わせて回転数を調節してください。

暖まっているエンジンの始動

1．スロットルレバーを高速側に少し動かしてください。
2．チョークレバーを「開」の位置にしてください。
3．周囲の安全を確認して、製品をしっかり押さえ、スタータグリップを数回引いてください。
4．スロットルレバーを高速側に動かし、作業に合わせて回転数を調節してください。



ストップスイッチ

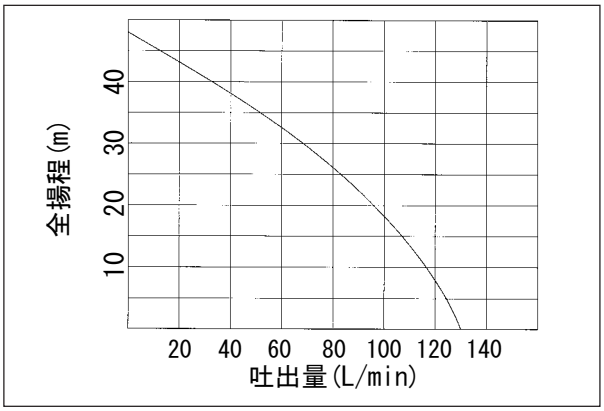
エンジンの停止

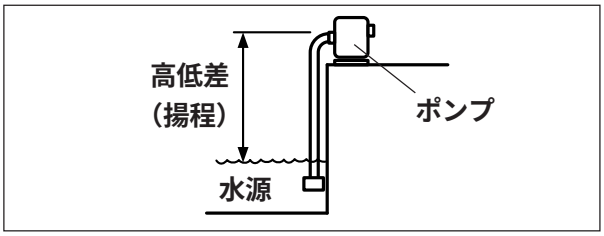
1．スロットルレバーを低速の位置にし、エンジンをアイドリング（低速運転）状態にしてください。
2．ストップスイッチを押してください。
3．緊急の場合は、直ちにストップスイッチでエンジンを停止してください。
4．エンジンが停止しないときは、チョークレバーを「閉」の位置にしてください。エンジンは失速し停止します。（応急停止）
※　ストップスイッチでエンジンが停止しなかった場合は、製品を再び使用する前に、お買い求めの販売店にストップスイッチの点検と修理を依頼してください。

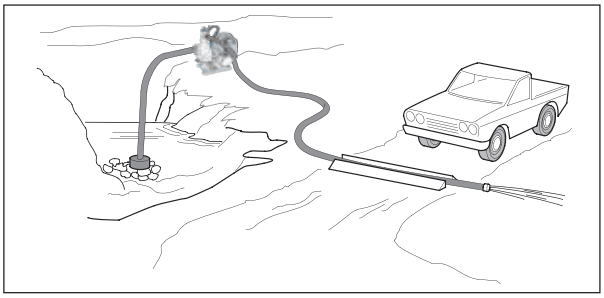
ポンプの運転

重　要

- 飲料用の水源、および生物の生息している湖沼から直接吸水することは、絶対に行なわないでください。
- 水源を汚染しないよう、注意してください。
- 温度０～４０℃程度の水を使用してください。高温水の使用は、故障の原因となります。
- ポンプには、清水または農業用水以外のものを吸込ませないでください。砂泥等、異物の多い水は使用しないでください。
- 使用するたびに吸水ストレーナは清掃し、目詰まりを防止してください。
- 吸水ストレーナは、完全に水中に沈めてください。吸水ストレーナの一部が空気中に出ていると、故障や吸水しない原因となります。
- 吸水ホースが、障害物などでつぶれないよう注意してください。吸水ホースのつぶれは故障や吸水しない原因となります。







1．ポンプ性能の低下を最小にするため、正しいサイズの吸水・吐出ホースを使用し、接続箇所は極力少なくしてください。またホースは可能な限り短くしてください。

2．高低差(揚程)は可能な限り低くしてください。高低差は8 mを越えないようにしてください。

3．空気の混入防止
   a. 吸水側の接続部分は全てしっかりと固定してください。
   b. 注水口ふたやドレンプラグはしっかりと締め付けてあり、漏れが無いとを確かめてください。

4．吐出ホースは、特に車による押しつぶれなどの損傷をさけるよう保護してください。
5．砂まじりの泥はポンプやポンプシールに損傷を与えるので、吸い込まないよう注意してください。
6．吸水ストレーナの詰まりを最小限にするため、泥やゴミの近くで吸水するときはストレーナをカゴの中に入れるか、大きな石の上に置いてください。

輸送・移動時の注意

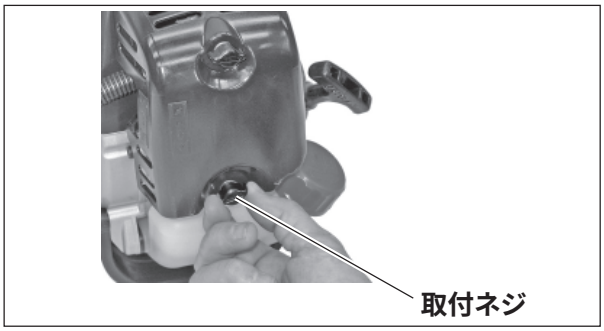
製品を輸送・移動するときには、以下の点を守ってください。

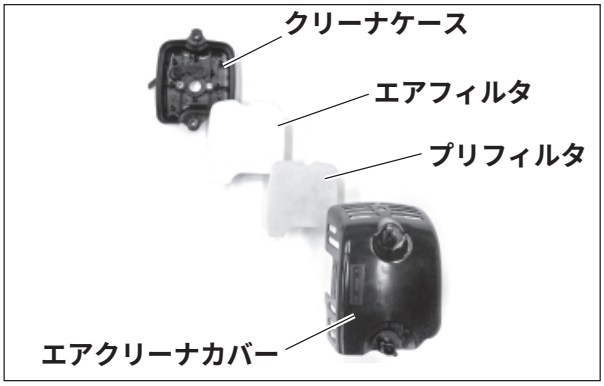
- 必ずエンジンを停止する。
- 製品使用後に輸送・移動するときには、エンジン、マフラが冷えるまで待つ。
- 燃料をカラにする。
- 製品に衝撃をあたえないようにする。

点検・整備

● お買い求め頂いた製品を調子よく安全にご使用いただくために､定期的に点検･整備を行なってください。
● 点検・整備は、十分な広さがあり安定した場所で行なってください。
● タバコ、その他の火気は厳禁です。

点検・整備の時期	点検・整備個所	点検・整備の内容
使用前	ネジ、ナット類	損傷と締まり具合の目視点検、必要なら交換・増し締め
	エアフィルタ、プリフィルタ	清掃、必要な場合は交換（１６ページ参照）
	燃料フィルタ	清掃、必要な場合は交換（１７ページ参照）
	燃料系統	目視点検、異常がある場合は交換（１７ページ参照）
	冷却風通路	清掃（１７ページ参照）
エンジン始動時	スロットルレバー	機能確認（１３～１４ページ参照）
	ストップスイッチ	機能確認（１４ページ参照）
毎回使用後	吸水ストレーナ	清掃、必要な場合は交換
１ケ月毎	スパークプラグ	目視点検、清掃、必要な場合は交換（１８ページ参照）
毎年	継手パッキン	目視点検、必要な場合は交換
長期保管 (３０日間以上)	燃料タンク	燃料をカラにする（２３ページ参照）
	ネジ、ナット他	増し締めなど（２３ページ参照）



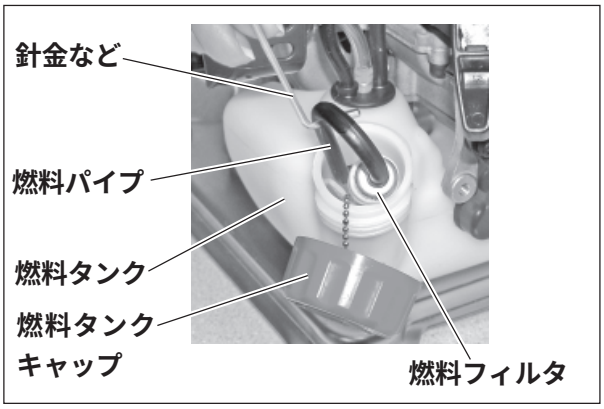


点検・整備要領

エンジンを停止し、十分に冷えてから行なってください。

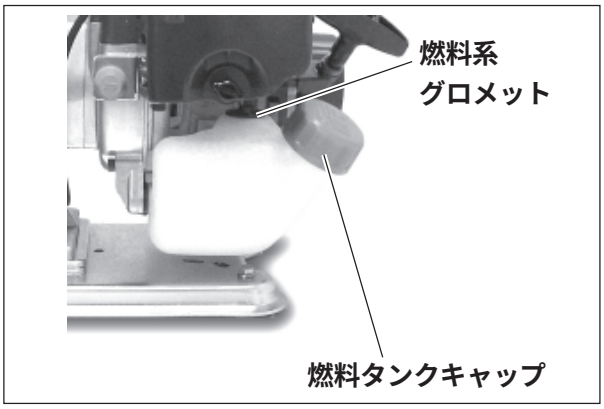
エアフィルタの清掃

１．チョークレバーを「閉」の位置にしてから、取付ネジをゆるめてエアクリーナカバーを外してください。
２．プリフィルタ（黄）、エアフィルタ（白）を取外してください。
３．プリフィルタは軽くはたいてゴミやホコリを取除くか、中性洗剤で洗ってください。洗剤を使用した場合は、十分に水洗いをし、よく乾かしてください。
４．エアフィルタは、エアーガンを使用する場合、必ずエアフィルタの内側から外側に向けてエアーを吹き付け、ゴミやホコリを吹き飛ばしてください。エアーガンが無い場合は、はたいてゴミやホコリを落としてください。傷ついたプリフィルタ、エアフィルタは新品と交換してください。
５．プリフィルタをクリーナカバーに取付け、エアフィルタをクリーナケースに取付けてください。
６．エアクリーナカバーを取付け、取付ネジを締めてください。



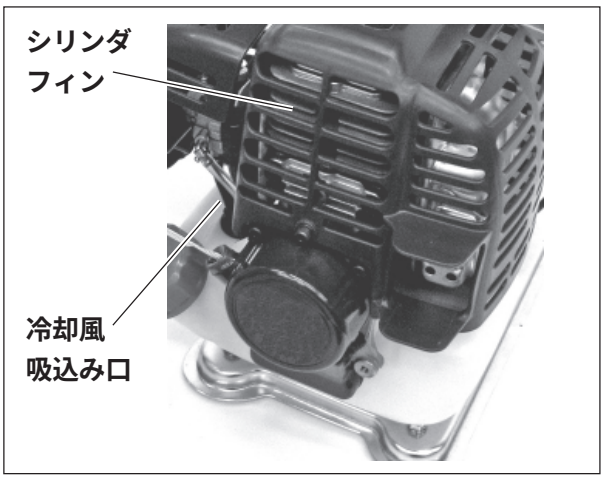
燃料フィルタの交換

1. 燃料タンクキャップを外してください。
2. 針金などを使用して、燃料パイプに傷をつけないように燃料フィルタを燃料タンクの給油口から取出してください。
3. 燃料が劣化していたり、水分やゴミが混入している場合には、燃料を交換してください。
4. 上記３．の場合にはタンク内や燃料フィルタ、燃料パイプも洗浄してください。
5. 燃料フィルタ部分が黒く硬くなっている場合は汚れていますので交換してください。
6. 燃料フィルタ、燃料パイプを元に戻してください。
7. 燃料フィルタが燃料タンクの底面に届いていることを確認してください。
8. 点検・交換後は、燃料タンクキャップを確実に締付けてください。



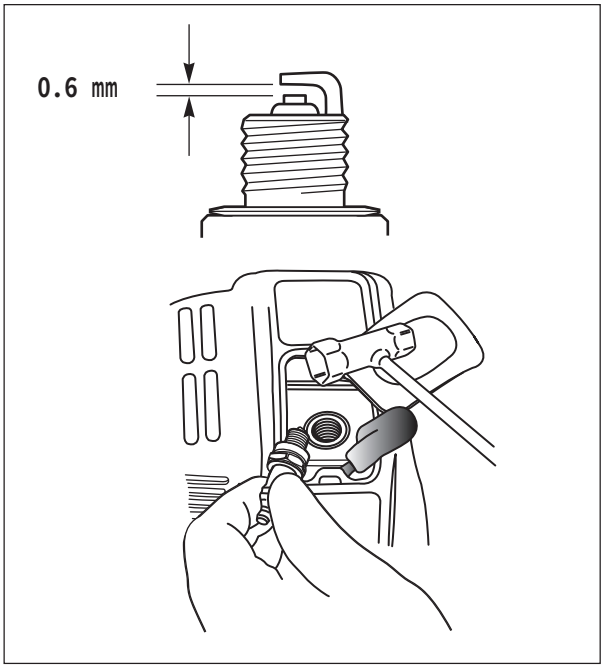
燃料系統の点検

1. ご使用前に燃料を補給した後、燃料タンクキャップを確実に締付け、燃料パイプ、燃料系グロメット、燃料タンクキャップ周辺から燃料の漏れ、にじみがないことを確認してください。
2. 燃料の漏れ、にじみがある場合は、火災の原因となりますので、直ちに使用を中止し、お買い求めの販売店に修理を依頼してください。



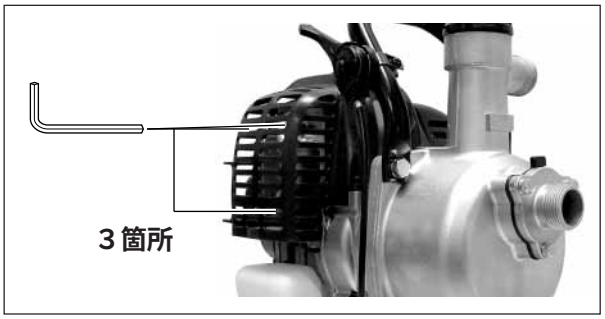
冷却風通路の清掃

1. シリンダフィンの間のゴミと汚れを取除いてください。
2. エンジンの底部と燃料タンクの間にある冷却風の吸込み口の周りに付いたゴミなどを、取除いてください。



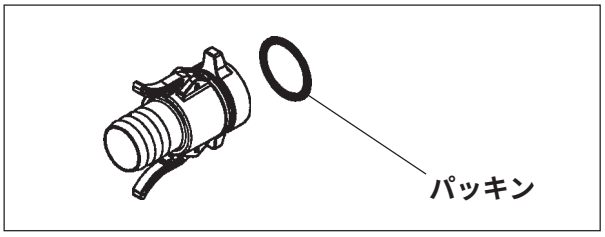
スパークプラグの点検

1．付属のソケットレンチ（16 ㎜）でスパークプラグを外してください。
2．電極やターミナルが摩耗しているとき、すき間が規定寸法（0.6 ㎜)でないとき、また電極の周囲にオイルや堆積物が付いているときは、新品と交換してください。
3．スパークプラグは、付属のソケットレンチでしっかり締付けてください。
参考：締付けトルクは16.7～18.6 N・m
(167～186 kgf・㎝)です。
4．スパークプラグキャップの接続に異常がないか、プラグコードやスパークプラグキャップにヒビ割れ、ピンホールなどがないかを点検します。



マフラの点検

- マフラの締付けボルトにゆるみがないか確認してください。ゆるみがある場合は、六角レンチで増し締めをしてください。
- マフラがカーボンなどで汚れているときや、排気口の防火網にカーボンが付着しているときは、清掃してください。



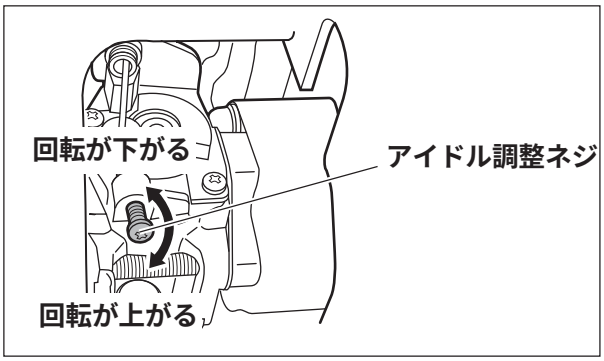
継手パッキン

点検し、損傷、摩耗していたら交換してください。

キャブレタの調整

重　要
●工場出荷時にキャブレタはエンジンの性能を最も良く引出せるよう設定されていますが、アイドル回転数が低すぎるか高すぎるときにはキャブレタの調整をしてください。 ●アイドル調整ネジは締めすぎないこと。強く締めすぎるとキャブレタが破損します。

キャブレタの調整を行なう前に、エアクリーナの清掃／交換を行ない、エンジンを数分間運転してください。(キャブレタ調整はポンプ内に水を通した状態で行なってください)



● アイドル調整ネジ

1. アイドリング(低速運転)の回転数を調整するときは、キャブレタ本体のアイドル調整ネジを回して調整してください。
2. 回転計をセットし、アイドル調整ネジを回して3000 rpm程度に回転数を合わせてください。

＊ 調整してもエンジン回転不調の場合は、お買い求めの販売店へご相談ください。

故障対策

● 使用中に不具合が起きたときには次の表に従って調査の上対策を施してください。

● ご不明の点については、お買い求めの販売店へご相談ください。

ポンプ

不具合事項	原　因	対　策
● 吐出しない／少ない	● ポンプ内が水で満たされていない ● 高低差が高すぎる ● 吸水ホースが長い ● 吸水ホースへのエア混入 ● 吸水ストレーナ・ホースの詰まり・損傷（ライナー入りホースも内部がつぶれます） ● ポンプ内部の損傷	● 呼び水をする ● 高低差を可能な限り低くする ● 可能な限り吸水ホースを短くする ● 吸水の接続箇所を締め直す ● 必要に応じて清掃・交換 ● 販売店へ相談
● 吸水高さが高いときに吐出が弱い	● 吸水ホースにエア混入 ● ポンプ内にエア混入 ● ポンプのインペラやケースが摩耗	● 接続箇所の締め直しか交換 ● 吸水の接続箇所を締め直す ● 必要に応じて点検・修理

エンジンが始動しない・始動しにくい

不具合事項	原　因	対　策
● ベーパーロック	● エンジンが高温／過熱 ● 燃料が少ない	● エンジンを完全に冷ましてから再始動 ● 燃料補給
● バルブクリアランス	● バルブクリアランスが不適切	● 販売店へ相談

エンジンが始動しない・始動しにくい（続き）

確認箇所	原　因	対　策
● エンジンは回りますか ↓はい　→いいえ	● リコイルスタータの損傷 ● クランクケース内の燃料溜まり ● 内部の損傷	● 販売店へ相談 ● 販売店へ相談 ● 販売店へ相談
● 適切な圧縮がありますか ↓はい　→いいえ	● スパークプラグの緩み ● シリンダ・ピストン・リングの異常摩耗	● 締め直してから再確認 ● 販売店へ相談
● タンクの燃料は新鮮で適切なグレードですか ↓はい　→いいえ	● 不適切な燃料・腐敗・汚れ・混合比不良	● 新鮮できれいな混合燃料に入替える
● プライマリポンプで燃料を吸い上げたきにリターンパイプ内を燃料が流れているのが見えますか ↓はい　→いいえ	● 燃料フィルタやベント（ブリーザ）の詰まりをチェック	● 必要に応じて交換して再確認
● 点火プラグコードのどこかでスパークしていますか ↓はい　→いいえ	● 配線が短絡 ● 点火コイルの損傷	● 販売店へ相談 ● 販売店へ相談
● スパークプラグを点検 →	● プラグの汚れ、ギャップ不良 ● プラグ内部損傷･指定外のプラグ	● 清掃とギャップ調整（0.6 ㎜） ● 正しいプラグに交換し再確認

出力が低い

確認箇所	原　因	対　策
● エンジンが過熱している	● 混合気が薄すぎる ● 混合燃料の混合比が不適切 ● ファン・ファンカバー・シリンダフィンが汚れている･損傷している ● ピストンやマフラ内部へのカーボン堆積	● 販売店へ相談 ● 新鮮できれいなガソリンと指定グレードの混合油を 50:1 で混合して使用 ● 清掃･修理または必要に応じて交換 ● 販売店へ相談
● スロットル全域でエンジン調子が悪く黒煙や白煙が出る	● エアフィルタ、プリフィルタの目詰まり ● スパークプラグの緩みや損傷 ● 燃料パイプの損傷・エア混入 ● 燃料への水混入 ● ピストンの傷 ● キャブレタの損傷	● エアフィルタ､プリフィルタの清掃 ● スパークプラグの締付け・交換 ● 燃料パイプ･ストレーナの修理･交換 ● 新鮮できれいな混合燃料に入替える ● 販売店へ相談 ● 販売店へ相談

出力が低い（続き）

確認箇所	原　因	対　策
● エンジンがノッキングする	● 加熱状態 ● 不適切な燃料 ● 燃焼室内のカーボン堆積	● 販売店へ相談 ● 新鮮できれいなガソリンと指定グレードの混合油を 50:1 で混合して入替える ● 販売店へ相談
● 加速不良	● エアフィルタ、プリフィルタの目詰まり ● 燃料フィルタの詰まり ● 燃料希薄化・エア混入 ● アイドリング回転が低すぎる	● エアフィルタ、プリフィルタの清掃 ● 燃料フィルタの清掃 ● 販売店へ相談 ● アイドル回転を調整
● 突然のエンジン停止	● ストップスイッチを押した ● 燃料タンクが空 ● 燃料に水が混入 ● 燃料フィルタの詰まり ● スパークプラグの短絡・ターミナルの緩み ● 点火コイルの損傷 ● ピストンの傷	● 再始動する ● 新鮮できれいな混合燃料を入れる ● 新鮮できれいな混合燃料に入替える ● 燃料フィルタの交換 ● スパークプラグの清掃、交換、ターミナルの締め直し ● 販売店へ相談 ● 販売店へ相談
● エンジン停止が困難	● 停止線が接続されていない。停止スイッチの接触不良 ● 指定外のスパークプラグによるエンジン過熱 ● エンジン過熱	● 必要に応じて確認・交換 ● 指定のスパークプラグに交換 ● エンジンが冷めるまでアイドル運転
● エンジン上部の油汚れ	● バルブカバーからのオイル漏れ	● 販売店へ相談
● エンジン回転がアイドルに下がらない	● アイドル調整が高すぎる ● エンジンにエア混入	● キャブレタのアイドル調整 ● 販売店へ相談
● 異常振動	● ポンプの損傷	● 販売店へ相談

長期保管

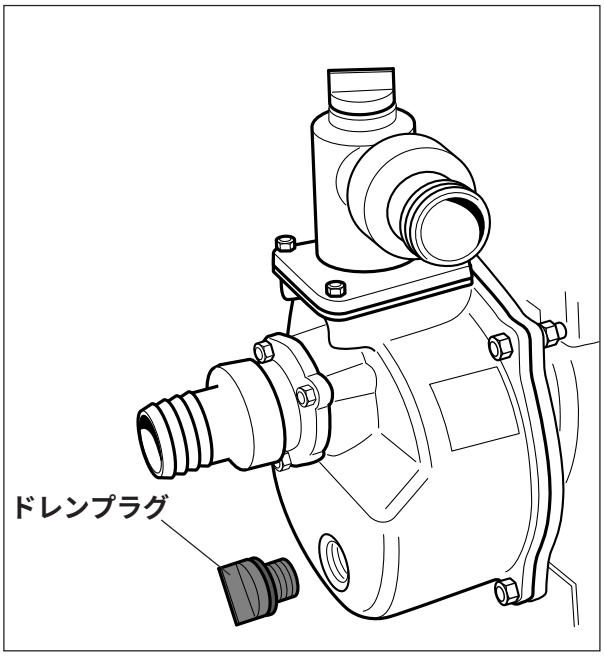
⚠ 警　告

燃料ガスが充満している密閉された場所や、裸火、火花のあるそばに保管しないこと。
☆火災の原因となります。



重　要

冬期間、水が凍結する恐れのある地域では必ず水抜きを行なってください。



長期保管する場合は、必ず以下の手順で整備してください。

水抜き

１．吸水ホース、吐出ホースを外してください。
２．注水口ふたを外してください。
３．ドレンプラグを外して、ポンプ内の水を排出してください。ホースに残った水も排出してください。

製品を長期間（３０日以上）にわたって保管する場合は、以下に示す保管の際の整備を必ず実施してください。

１．燃料タンクを完全にカラにしてください。
A．燃料タンク内の燃料を抜き取ってください。
B．プライマリポンプを押す・離すの操作を数回くり返して、プライマリポンプの燃料を抜いてください。
C．燃料タンク内にたまった燃料を抜き取ってください。
２．吸水ホース、吐出ホースを外してください。
３．注水口ふたを外し、ドレンプラグを外して、ポンプ内の水を抜いてください。
４．製品が十分冷えた状態で、外側に付いたグリース、オイル、ホコリ、ゴミなどをきれいに拭き取ってください。
５．本書に定められた定期的な点検をしてください。
６．スクリュ、ナット類が締まっているか確認してください。ゆるんでいる場合は、増し締めしてください。
７．スパークプラグを外し、その取付穴から適量（7 mL程度）の、新しくきれいな２サイクルエンジンオイルをシリンダに入れてください。
A．スパークプラグの取付穴の上にきれいな布を掛けてください。
B．スタータグリップを２、３回引いて、エンジンオイルをシリンダ内に行き渡らせてください。
８．スパークプラグを取付けてください。
（スパークプラグキャップは接続しないでください。）
９．製品が乾いた状態でビニール袋などで包み、子供の手の届かないホコリの少ない乾燥した場所に保管してください。

●製品や部品を廃棄するときは、販売店にご相談するか、自治体の指導に従ってください。

仕　様

項目	単位	型　式　名 KEP252H
質量 （ホース、継ぎ手、燃料除く）	kg	7.1
容量 燃料タンク	L	0.64
外形寸法 長さ×幅×高さ （ホース、継ぎ手除く）	mm	342 × 223 × 339
エンジン 形式 排気量 最大エンジン回転数 アイドリング回転数 キャブレタ形式 点火方式 スパークプラグ 始動方式 動力伝達方式	 mL r/min r/min 	 空冷４サイクル単シリンダ 34.0 7,500 3,000 ロータリー式 フライホイールマグネト電子点火方式 ＮＧＫ　ＣＭＲ５Ｈ リコイルスタータ 直結
燃料混合比		［レギュラーガソリン：２サイクルエンジンオイル］=[50:1] やまびこ純正２サイクル専用オイルか、ＪＡＳＯ性能分類ＦＣまたはＦＤ
ポンプ 形式 吸入口径 吐出口径 最大吸込高 最大全揚程 最大吐出量	 mm mm m m L/min	 自給式渦巻きポンプ 25 (1 in) 25 (1 in) 8.5 48 132

＊この仕様は予告なしに変更することがあります。

メ　モ

メ　モ

メ　モ

株式会社やまびこ

〒198-8760 **東京都青梅市末広町 1-7-2**　　**Tel 0428-32-6181**

やまびこ北海道株式会社
〒004-0041　北海道札幌市厚別区大谷地東 1-2-20　　Tel 011-891-2249（代）

やまびこ東北株式会社
〒984-0002　宮城県仙台市若林区卸町東 5-1-50　　Tel 022-288-0511（代）

やまびこ東部株式会社
〒198-0025　東京都青梅市末広町 1-7-2　　Tel 0428-32-1091（代）

やまびこ中部株式会社
〒452-0031　愛知県清須市西枇杷島町宮前 1-39　　Tel 052-502-4111（代）

やまびこ西部株式会社
〒701-0221　岡山県岡山市南区藤田566-159　　Tel 086-296-5911（代）

やまびこ九州株式会社
〒816-0943　福岡県大野城市白木原 5-3-7　　Tel 092-573-5361（代）

やまびこ産業機械株式会社
〒731-3167　広島市安佐南区大塚西6-2-11　　Tel 082-849-2005（代）

ご用命の際はお買い上げいただいた販売店へご連絡ください。

X750-019 84 0
X750672-050 0　　1108A 0445 ES

© **2011** 株式会社やまびこ　著作権法により無断での複製、転載などは禁止されております。